

続・考え得る最悪の終末シナリオ：ペドフィリア戦争

人間の進化（神化）を妨げる者たち

Greatchain

2017/12/26

集団的アセンション（ascension）と言われているものが、本当に起こるかどうかわからない。しかし、起こるものとして考えると、いくつか謎が解けることがある。これは「次元上昇」と訳されることが多く、鉱物、植物、動物、人間というように次元が上がってきたものが、さらにもう一つ上がる、ということであろう。（この「次元」は数学者の「n次元」というようなものではない。）これは「進化」と言ってもよく、本来の進化とはこのようなもの（意識レベルが次第に上昇していくこと）である。にもかかわらず、ダーウィンの唯物論の進化がこの言葉を占有してしまった。そこで進化と言えば、泳ぐひれができる、歩く足ができる、飛ぶ羽ができる、といった形（と機能）の変化だけを指す言葉になってしまった。本来の evolve (evolution) とは、潜在するものの開花ということである。

そこで今、人間の集団的意識レベルの上昇が起ころうとしているときに、これを阻止しようとしている者たちがいる。——こう言えば、カンのいい人々は、瞬時に、現実世界の全体がさっと見通せるであろう。彼らは、我々を知的に奴隷化しようとしている。また道徳的な向上を阻止しようとしている（ソドムとゴモラの世界を、あえて作り出そうとしている）。我々を、この3次元世界という牢獄に閉じ込め、より高い世界、獄の外の世界があるという事実気づかせなければ、彼らとしては成功である。人間の進化が起ころうとしているときに、これを食い止めれば、彼らは我々を永久に支配できる。そう考えれば、今起こっていることの多くの謎が解けてくるではないか？

なぜ我々は、何十年も変わらないイラストを使った、ダーウィン進化論を教える生物教科書を、与えられてきたのか？ 不自然ではないか？ なぜ、何の害もないようにみえる、ホーリスティック医療家を次々に殺すのか？（“牢獄”を脱するきっかけが、そこに含まれているからである。）なぜ彼らは、ロシアのプーチン大統領が指摘するように、「セックスを利用して社会を破壊しようとする」のか？ これは、サタン教に改宗宣言をした法王フランシスが認める「我々よりはるかに賢い（したがって従うべき）」サタンと、そのサタンの賢さを受け継いだエリートたちによる、巧妙な手口と考えるべきである。

「セックスを利用して社会を破壊しようとする」とは、日本人でも行われている、オバマ流の“左翼”の方法、人間の性の禁忌をどこまでも軽くし、なし崩しに人間そのものを骨抜き(魂抜き)にすることである。その究極の形が、子供を性の対象とするペドフィリアである。これがサタンのわざであることを示す、いくつかの兆候がある。(私は憑依の定義を知らず、憑依ではないかもしれないが、サタンの影響力ではあるだろう。)まず、その純粋で疑うことを知らない子供を襲うという卑劣さである。この卑劣さは、サタンの顕著な属性であり、人間のものではない。それは、アメリカ深層国家の常套手段であるニセ旗作戦や、騙し(プロパガンダ)戦術にも現れている。

しかし、「彼ら」がアセンションを恐れていると仮定すべき、最大の理由は、流行しているのが、単に性暴力でなく、子供に対する性暴力だということである。なぜ子供か？ 子供は性欲を満足するようにはできていない。不思議ではないか？ これは、物心がつき、かつ純粋無垢な、いわば最も神に愛される年齢(4, 5歳)の子供ほど、生贄には適するという悪魔の側から考えてみれば、謎は解ける。

ペドフィリアは、前にも言ったように、「人間の犯しうる最大の犯罪」である。サタンの目的は、これら最もアセンションの条件から遠い重罪犯と、神との絆を突如、断ち切られた子供たちが、この地球上に、あふれるようにすることではないだろうか？ すなわち、アセンションを迎えたこの時期、“牢獄”につながれ、光を見失った人間が多ければ多いほど、サタンとその手下どもにとって、好都合なはずである。今起こっているこの現象は、明らかにサタンと神との戦いである。これを、悪魔と神の、人類の魂の奪い合いと考えるなら、純粋無垢な子供が、その魂に当たる。この犯罪はどこまで浸透しているのだろうか？ 旧約のソドムとゴモラの逸話に、性的悪徳のはびこるこの町で、正しい人が何人まで残っていれば全体が減ぼされずに済むか、と神に問うところがある。我々の住む市街地区でも、何パーセントまで子供が不良化すれば、全体が不良化するかという数値がある。正確には覚えていないが、割と低い数値だったと記憶している。

では事態は絶望的か？ 私はそうは思わない。我々をはるかに超える彼らの知能を、破ることはできないのか？ 私はできると思う。まだ戦いは始まったばかりである。まず事実を——それがいかに知りたくない事実でも——知らなければならない。知ることなしに戦いには勝てない。今、暗殺のリスクがありながら、事実を暴く勇気のある人々が、急速に増えている。また、おそらく、先日のハリウッドの大物の逮捕がきっかけとなり、性的被害に遭った多くの女性(男性も)が、Me-tooというハッシュタグで結ばれ、情報を交換しているという事実がある。これに続いて Church-too という、ペド僧侶被害者のオンラインの集合所もできた。これらは明らかに、一人ではできなかったことを可能にするもので、大きな飛躍で

ある。

問題は、我々を支配する権力者が、悪魔の司祭であり、彼らが我々の子や孫を食い物にしても、罪を問われないということである。これを説明するドラマのようなエピソードがある。マックス・クリフォードという英王室に出入りする、名うてのペド犯が、ついに捕まったが、獄中で変死した（明らかに王室内の秘密を漏らす前に殺された）事件である。その獄中のマックスと、看守とのやり取りが面白い。マックスは面白い男で、看守の間で人気があったというが、あるとき看守が、「おい、マックス、お前は王室のことなら何でも知っているというが、いったい、どんなことを知っているのだ？」と聞くと、マックスは「あんたに子供はあるか？ あるなら、この話を聞けば、もう眠れなくなるだろう」と答えた。それきり看守は何も聞かなかった。この途絶えた会話に、どれほど多くの情報が含まれていることか。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/171212.pdf>

ペド犯に対する一般大衆の激しい怒りから判断して、これが上層階級への復讐のうねりとなり、それが今度は権力による大弾圧となって、内乱あるいは戦争につながっていくというシナリオは、十分あり得る。それは阻止しなければならない。双方が逆上するというようなことがあってはならない。それを抑えるのがアセンション仮説である。要するに、我々が良い方へ向かうために、そのきっかけとして、この混乱が起こっていると信ずることである。

私は、集団的アセンション、つまり人間が神に向かって飛躍する進化（神化）が起こると信じている。しかし、たとえ信じなくとも、そのような仮説を立てて考えるだけで、不可解な謎が解け、しかも生きる勇気が湧いてくる。我々は目的をもってこの世に生まれてきた。我々はこのまま死んだとしても、我々の後の世代が、“牢獄”から解放されて、明るい世界へ出ていこう。そして、ペドフィリアの犠牲者として、暗い一生を送ってきた人々は、未来を信じて「**すべてを許す**」という大きな決断をしたときに、あなたも解放され、我々も解放され、究極的にはサタンそのものも解放されて、去っていくはずである。あなたが原動力となって宇宙を転換させる。そのカギがいま、あなたや我々の手にあると私は信じている。

——以上